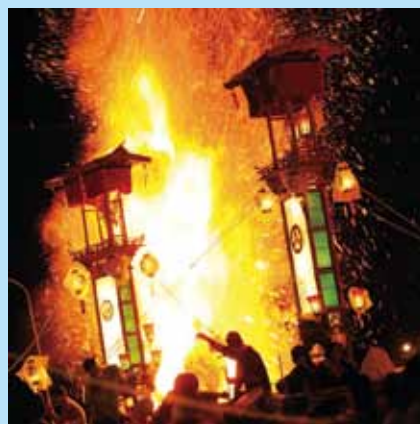


新ほっと石川 観光プラン

(平成22年度 改定版)



表紙
金沢／兼六園
能登／あばれ祭
加賀／山中温泉こおろぎ橋
白山／白山スーパー林道

はじめに

21世紀は、人々が国境を越え、地球規模で行き交う“大交流時代”と言われています。そうした中、観光は、その経済効果が幅広い分野に波及する裾野が広い産業であるとともに、交流人口の拡大に大きな役割を担うものであり、人口減少時代における地域の活力の維持向上に大きく貢献できるものと考えています。



このため県では、本県の観光に関する施策を再構築し、新たな観光戦略を展開するため、平成17年3月に「新ほっと石川観光プラン」を策定し、本県への誘客にかかる様々な施策を積極的に展開してまいりました。

しかし一方で、プラン策定後も、旅行形態や旅行者ニーズの変化、インターネットの普及による旅行情報の入手方法の変化など、旅行者の動向は大きく変化してまいりました。

またこの間、本県では、多様な交通基盤の整備を着実に進めるとともに、金沢城「河北門」や県庁跡地の「石川県政記念しいのき迎賓館」など、文化・観光施設の整備・充実にも積極的に取り組んできたところであります。

そしていよいよ、本県の希望の象徴とも言うべき北陸新幹線の金沢開業が、平成26年度末に迫ってまいりました。平成21年3月には、新幹線開業効果を最大限に引き出し、県内全域へ波及させるためのアクションプラン「STEP21」を策定したところであります。

このような本県の観光を取り巻く環境の変化に的確に対応するため、このたび「新ほっと石川観光プラン」の改定を行いました。本プランでは、「STEP21」に基づく具体的な施策や「首都圏誘客500万人構想」等を新たに盛り込むとともに、裾野が広い観光産業について広くご理解いただくため、観光消費額の目標値に加え、観光のもたらす経済波及効果についての推計を試みております。

今後、このプランに基づき、関係機関と連携しながら、観光誘客の拡大を図ってまいりたいと考えております。各市町や関係団体、関連業界各位におかれましては、観光を核とした地域の活性化を図っていただきますとともに、県民の皆様方におかれましても、それぞれのお立場で取り組みを進めていただくことを期待しております。

終わりに、プランの策定にあたり精力的にご議論いただきました「新ほっと石川観光プラン中間評価懇話会」や「石川県観光創造会議」の委員の方々をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただいた関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成23年3月

石川県知事 谷本正憲

目次

第1章■本県観光をとりまく環境の変化	01
～「新ほっと石川観光プラン」改定の背景～	
第2章■観光振興の基本的な考え方	04
1. 石川県観光の目指すもの	04
2. 環境の変化に柔軟に対応した戦略視点	05
3. 観光目標値の設定	06
第3章■施策の展開と新たな施策について	09
施策の体系	09
1. 本物との出会いと豊かな体験	10
2. おもてなし	14
3. 情報発信	16
4. 海外からの誘客促進	18
5. 広域周遊観光	20
6. アクセスの整備	20
新たな施策について ～今回の改定のポイント～	22
第4章■推進体制	30
1. 役割分担の明確化	30
2. 県の推進体制の強化	30
3. 県観光連盟、(財)金沢コンベンションビューローの機能強化	31
4. 観光基礎データの充実	31

第1章 ■ 本県観光をとりまく環境の変化

～「新ほっと石川観光プラン」改定の背景～

本県では、平成17年に「新ほっと石川観光プラン」を策定し、北陸新幹線金沢開業に向けて、「三大都市圏誘客1,000万人構想」「海外誘客3倍増構想」を掲げ、観光振興のための諸施策を積極的に推進してきたが、「新ほっと石川観光プラン」の策定後の、本県観光を取り巻く環境は大きく変化している。

国内においては、旅行形態や旅行者が求めるニーズが変化するとともに、インターネットの急速な普及により、旅行に関する情報の入手方法や、宿泊施設、交通機関の手配方法に大きな変化がみられる。

海外については2003年の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」開始以降、近年の世界的な不況や新型インフルエンザ等の影響を受けたものの、訪日外国人旅行者数は大きく増え続けている。

また、政府においては観光庁の新設や「新成長戦略」等により、観光立国の推進に向けた様々な施策が展開されている。

そうした中、本県においては、北陸新幹線金沢開業に向けた工事が進められているだけでなく、1県2空港体制の確立、高速道路網の整備等の交通基盤の整備や、文化・観光施設の整備が着実に進んでいる。また、プラン策定後新たに、新幹線金沢開業に向けたアクションプラン「STEP 2 1」、「海外誘客10倍増構想」、「コンベンション誘致推進計画」等を策定し、様々な施策を展開している。

今回、こうした本県観光を取り巻く環境の変化に対応し、より具体的施策を盛り込むため、「新ほっと石川観光プラン」の改定を行うこととした。

本県観光を取り巻く環境の変化
① 国内旅行の動向の変化
② 政府の取り組みの強化
③ 石川県を訪れる外国人旅行者の構造の変化
④ 新幹線金沢開業に向けた「STEP 2 1」の策定
⑤ 石川県における新たな誘客プランの策定
⑥ 石川県におけるインフラの整備

環境の変化① ～国内旅行の動向の変化～

◆旅行形態の変化

旅行形態は、これまで主流であった職場や地域などの団体旅行から減少し、個人や家族等との旅行が増加している。

◆旅行ニーズの変化

これまでの慰安旅行や温泉等の遊興飲食を主体とする旅行ニーズに加え、知的充足や癒し、自然体験や、地域の人との交流など、参加体験を求める「本物志向」のニーズが高まってきている。

◆旅行先の決定にかかる情報入手方法の変化

旅行先の情報を入手する方法としては、家族や友人等の口コミの情報によるものが多い一方で、インターネットの急速な普及により、旅行に必要な情報をインターネット上でリアルタイムに入手する旅行者が増加しており、思い思いに気軽に旅行するスタイルが今後より一層進むと見られる。

同行者の種類

区 分	平成15年	平成20年
自分ひとり	3.6%	4.5%
家族	44.0%	46.9%
友人・知人	23.8%	20.4%
職場・学校の団体	7.2%	6.5%
地域・宗教・招待などの団体	3.6%	3.3%

資料：日本観光協会「観光の実態と志向」

宿泊観光旅行の主な目的

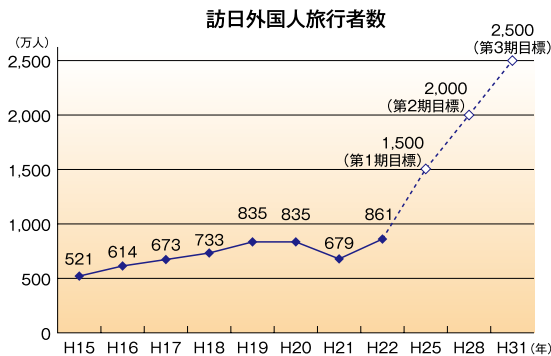
区 分	平成15年	平成20年
自然・名所・行楽等	23.9%	33.7%
慰安旅行・温泉	38.3%	33.5%
スポーツ・レクリエーション	15.5%	14.5%
趣味・学習・研究	3.5%	6.1%
祭り・イベント	3.2%	4.3%

資料：日本観光協会「観光の実態と志向」

宿泊観光旅行の目的地を決定する際に参考とするもの（複数回答）

区 分	平成15年	平成20年
インターネット	24.0%	40.8%
家族・友人の話	37.1%	36.5%
パンフレット	35.1%	34.3%
ガイドブック	35.8%	33.4%
旅行専門雑誌	29.7%	27.6%
新聞・雑誌の広告・チラシ	19.8%	21.2%
旅行業者	18.3%	19.1%

資料：日本観光協会「観光の実態と志向」



◆訪日外国人3,000万人プログラム

国では、2003年の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」開始以来、訪日外国人旅行者の誘致に向け、様々な施策を展開している。こうした流れを受け、近年、日本を訪れる外国人旅行者数は大幅に増加し、平成21年には約861万人となった。

そうした中政府では、「新成長戦略」において「訪日外国人3,000万人プログラム」を策定し、将来的には訪日外国人を英国並みの3,000万人にするという新たな目標を設定している。

◆休暇取得の促進

交通混雑の緩和や旅行料金の平準化により、潜在的な旅行需要の創出を図るため、有給取得の促進や秋の大型連休の新設、地域別の分散設定などが検討されている。

◆高速道路の新たな割引制度の実施

高速道路の新たな割引制度（休日特別割引）や高速道路無料化の実証実験の実施により、全国的に週末のマイカー旅行の需要が増加した。

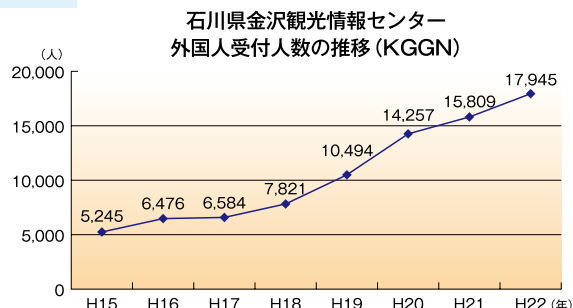
環境の変化③ ～石川県を訪れる外国人旅行者の構造の変化～

◆欧州等からの個人旅行者の増加とニーズの多様化

近年、本県を訪れる外国人旅行者は、欧米豪を中心に個人や小グループの旅行者が多くみられるようになってきている。また、そうした変化とあわせて、食や体験など旅行者が求めるニーズも多様化してきている。

◆誘客市場の拡大

本県を訪れる外国人旅行者は、台湾からの旅行者が多数を占めるが、近年は経済成長著しい中国や香港、東南アジア、また欧米豪からの個人旅行者についても増加傾向にあり、誘客市場の拡大、多様化が見られる。



地域	H15	シェア	H22	伸び率	シェア
台湾	12,662	47%	66,116	522%	49%
韓国	1,239	5%	10,069	813%	8%
中国・香港	1,841	7%	15,243	828%	11%
東南アジア	387	1%	7,508	1940%	6%
欧州	3,909	14%	20,909	535%	16%
豪州	975	4%	3,940	404%	3%
北米	5,649	21%	8,083	143%	6%
その他	420	2%	2,141	510%	2%
総計	27,082		134,009	495%	



STEP 21 (表紙)

環境の変化④ ～新幹線金沢開業に向けた「STEP 21」の策定～

◆STEP 21

北陸新幹線金沢開業の効果を最大限に引き出し、県内全域に波及させるため、平成21年3月に策定。3つの基本戦略（観光誘客拡大、魅力ある交流基盤づくり、産業地域づくり）に基づき幅広い分野にわたる施策に取り組むこととしている。また、3つの重点プロジェクト（おもてなしの向上、食文化の魅力向上、歴史・景観を活かした地域づくり）を設け、官民連携で推進することとしている。

環境の変化⑤ ～石川県における新たな誘客プランの策定～

◆海外誘客10倍増構想

当初策定していた「海外誘客3倍増構想」では、平成15年の外国人宿泊者数5万人を15万人とする目標を掲げていたが、平成19年に目標を達成したことから、目標を10倍の50万人とする新たな目標を平成20年に設定した。

◆コンベンション誘致推進計画

民間企業等の会議、研修や修学旅行の誘致などを積極的に推進していくため、平成21年に新たに策定した。



コンベンション誘致推進計画(表紙)

環境の変化⑥ ～石川県におけるインフラの整備～

◆交通基盤整備の進展

◇空港の状況

平成15年の能登空港開港により、小松、富山空港を組み合わせた新しい観光ルートの形成や、能登空港への台湾インバウンドチャーター便の運航など、1県2空港の体制が、国内・海外両面の観光誘客に貢献している。

また、国際便については、小松・ソウル便、小松・上海便が週4便就航しているほか、小松・成田便、小松・羽田便を活用した海外各地への乗り継ぎも可能となっている。また、小松・台北便は平成20年の就航以来、搭乗率は比較的順調に推移しているなど、外国人観光客の一層の来訪に向けた交通インフラが整ってきている。



能登空港



小松空港

◇道路の状況

平成20年の東海北陸自動車道全通や、平成18年の徳光スマートIC及び平成21年の安宅スマートICの追加、能越自動車道の整備など高速道路網の整備が進むとともに、能登有料道路についても無料化の予定である。

また、山中町と福井県丸岡町を結ぶ「丸岡・山中温泉トンネル」の開通を契機に、山中温泉・永平寺間の周遊バス(「永平寺おでかけ号」)の運行など地域における取り組みも進められている。

◇鉄道の状況

平成26年度末までに北陸新幹線の長野～金沢間が開業する予定となっている。開業後は首都圏とのアクセスが約2時間30分と大幅に短縮されることから、関東周辺や北陸新幹線沿線地域からの観光客が大幅に増加するものと見込まれている。



山中温泉/こおろぎ橋

◆文化・観光施設の整備

文化施設の整備も進んでおり、平成20年に「石川県立美術館」や、「石川四高記念文化交流館」がともにリニューアルオープンしたほか、平成22年4月には、旧県庁跡地に「石川県政記念しいのき迎賓館」がオープンするとともに、金沢城公園では「河北門」が復元、整備された。

また、「のとじま水族館」では平成22年8月から、日本海側の水族館としては初めてジンベエザメの展示を始めるとともに、「いしかわ動物園」では動物をより間近で観察できるよう工夫を凝らした展示環境の整備を進めている。

これらのように県内各地で文化・観光施設の整備が進んでおり、新しい観光スポットになるものと期待される。



石川県政記念しいのき迎賓館



金沢城公園/河北門



のとじま水族館/
ジンベエザメ館 青の世界

第2章 ■ 観光振興の基本的な考え方

1. 石川県観光の目指すもの

観光の原点は、地域の美しいものやおいしいもの、珍しいもの、おもてなしの心など、その地域の住民が誇りとする「光（観光資源）」によって観光客をもてなし、感動を与えることにある。

幸い、石川には長年にわたって育まれた伝統文化、新鮮な山や海の幸、湯量豊富な温泉、豊かな自然、質の高い芸術に触れられる施設が集積、心温まる人々のおもてなし等、住む人々が誇りとする光が数多く有り、本物や体験、癒しを求める近年の観光客のニーズにも合致しているとともに、これらは石川県の優位性、独自性となっている。

今後はこうした石川県の強みである優位性、独自性を活かすとともに、アクションプラン「STEP 21」等の要素を新たに加え、更なる誘客促進を図っていくこととする。

◆おもてなしの向上

「能登はやさしや土までも」といわれるように、能登をはじめとして石川県には心温まる人々のおもてなしがある。今後も、「おいであそばせ運動」などの展開を通じて、数多く温泉地などで培われた高い水準の「プロのおもてなし」はもとより、県民挙げてのおもてなしを推進する。



片山津温泉／浮御堂

◆食文化の魅力向上

石川の観光の魅力我代表するもののひとつに“食”がある。

本県は日本海の新鮮な海の幸や、加賀野菜、能登野菜に代表される本県独自の農産物など食材の宝庫であるとともに、加賀料理や和菓子などの伝統的な食文化に加え、能登井、白山百膳など地域の特色を活かした新たな取り組みが進められている。こうした伝統的な食文化や、新たな取り組みを推進することにより、石川の食文化の魅力向上を図り、情報発信を推進する。



ルビーロマン

◆歴史・景観を活かした地域づくり

加賀百万石の歴史に培われた本県は、能や茶の湯などの伝統文化、輪島塗、加賀友禅、九谷焼などの伝統工芸のほか、武家屋敷など風情ある街並みが数多く残されており、これらは石川県の風土そのものである。

また、日本三名山の一つである白山から、日本の原風景が残る能登まで、四季折々の美しい自然、湯量豊富な温泉とそこで培われてきたもてなしの文化、能登のキリコ祭りに代表されるさまざまな祭りなど、固有の資源が数多い。

こうした、人々の長い営みにより形成され、地域の暮らしに根ざした文化や自然が多く残されていることも本県観光の大きな特徴のひとつであり、これらの資源の保全、維持を図るとともに、観光への積極的な活用を図っていく。



能登井



輪島／千枚田



木場潟からみる白山



金沢／ひがし茶屋街

2. 環境の変化に柔軟に対応した戦略視点

北陸新幹線金沢開業に向け、「STEP 2 1」との一体化を図るとともに、プラン策定後の環境の変化に対応するための施策を推進する。

～国内～

◆誘客対象

◇誘客対象地域

引き続き、3大都市圏を最重点地域として位置づけると同時に、特に首都圏を戦略地域として新たに位置づける。

また、北陸新幹線沿線地域（長野県、新潟県、富山県など）や、新幹線でつながり利便性が向上する東北地域についても新たに重点地域として位置付ける。

◇誘客層

引き続き、幅広い誘客層へのアプローチを行うとともに、主流となる旅行形態の変化に伴い、増加するファミリー層や、定年退職を迎えた「団塊世代」や高齢者層等を重要なターゲットとする。

◆誘客視点

◇多様な旅行ニーズを満たす環境づくり

ニューツーリズムの推進や観光資源の多様な活用により、多様化する旅行ニーズに対応できる環境づくりを目指す。

◇インターネットや口コミ等を活用した情報発信

観光の動機や旅行を決める重要な情報源である、インターネット等ITや、いしかわ観光特使の活用等により、効果的な情報発信を行う。

◇国との連携や、地域間の広域連携による取り組み

国の施策と連携した取り組みを推進するほか、整備が進む交通基盤を活用して、地域間の広域連携による取り組みを推進し、誘客促進を図る。

◇「STEP 2 1」との一体化

新幹線金沢開業に向け「STEP 2 1」との一体化を図り、3つの重点プロジェクトのテーマに沿った施策を推進し、首都圏からの誘客促進を図る。

◇MICEの推進

「コンベンション誘致推進計画」に基づき、民間企業の会議・研修の誘致推進を目指す。

～海外～

◆「海外誘客10倍増構想」の推進及び国との連携による誘客促進

平成20年に策定した外国人宿泊者数50万人を目標とする「海外誘客10倍増構想」を推進するとともに、「訪日外国人3,000万人プログラム」等に基づいた国の施策とも連携しながら誘客促進を図る。

◆誘客視点

◇国ごとの特色やターゲットを絞った誘客活動

（台湾、韓国）スキー、サイクリング、ゴルフなどのスポーツやレジャー旅行及びインセンティブ旅行と若年女性層等の個人客の誘致。

（中国）小松・上海便を活用した、上海市や江蘇省など将来の有望地域からの誘客強化と、商務ツアーや教育旅行、医療観光の誘致。隣県との広域連携による誘客活動。

（香港）広域連携による誘客の推進。

（米国）食文化情報の発信と富裕層及びSIT誘客の推進。

（欧州、東南アジア等）ランドオペレーターとの連携による新市場開拓。

◇増加する個人旅行者への対応

近年、本県を訪れる外国人観光客は欧米豪を中心に個人旅行者が増加傾向にあることから、これらの旅行者が安心して、県内を一人歩き出来るよう、受入体制の整備を図っていく。



輪島／朝市



白山／白山比咩神社



金沢／近江町市場



白山／瀨女高原スキー場

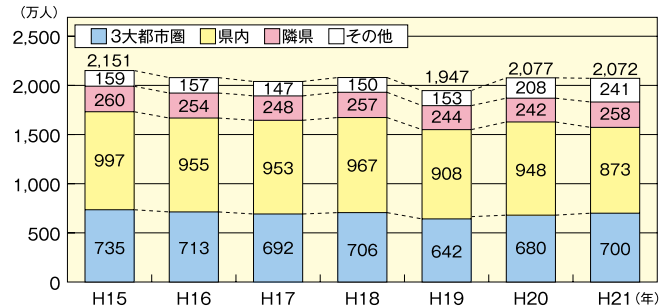
3. 観光目標値の設定

◆本県の観光入り込みの動向

◇全県的な観光入り込み状況

平成17年の新ほとと石川観光プランの策定以降の観光入り込み状況は、能登半島地震の影響で大幅に減少した平成19年を除き、概ね横ばいの傾向となっている。

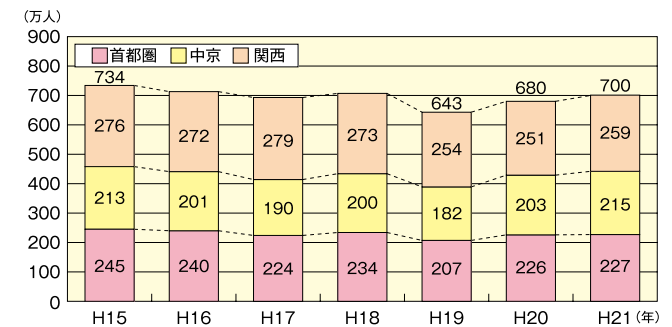
平成21年は、世界同時不況の影響などの逆風があったものの、高速道路通行料金割引の効果などもあり、ほぼ前年並みの2,072万人となった。



◇3大都市圏からの観光入り込み状況

最重点地域に位置付けている3大都市圏からの入り込み状況は、平成21年は700万人となっている。

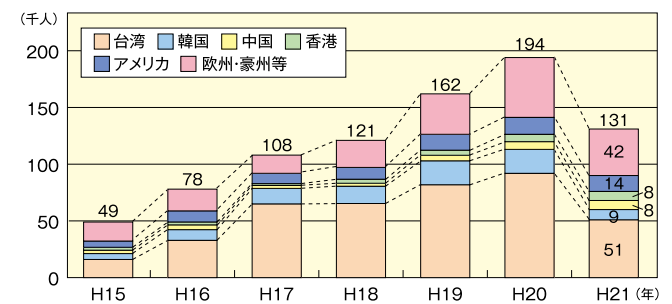
プラン策定以降をみると、能登半島地震の影響で大幅に減少した平成19年を除くと、概ね横ばいの傾向となっている。



◇外国人宿泊者数

本県の外国人宿泊者数は、平成21年は13万人となっている。

国・地域別では、台湾からの宿泊者が半数近くを占めるが、近年はアジアだけでなく、ヨーロッパ等からの宿泊者も増加傾向にある。



◆観光入り込み客数の目標設定

観光入り込み客数については、今後の観光振興施策の効果測定・評価の指標として位置づけ、引き続き3大都市圏及び海外からの誘客を推進するとともに、首都圏を戦略地域とし新たな重点目標を設定する。

◇目標年次

北陸新幹線金沢開業予定年の平成27年とする。

◇3大都市圏～3大都市圏誘客1,000万人構想～

引き続き、3大都市圏を本県の誘客の最重点地域と位置づけ、北陸新幹線の開業効果と各種施策の充実等により、平成15年の735万人を目標年には1,000万人とする。

3大都市圏入り込み客数(実績と目標)

発地別	H15年(実績)	H21年(実績)	H27年(目標)
首都圏	245万人	227万人	500万人
中京圏	213万人	215万人	500万人
関西圏	276万人	259万人	500万人
3大都市圏	735万人	700万人	1,000万人

◇首都圏～首都圏誘客500万人構想～ ※新たに設定

平成21年の首都圏からの入り込み客数は227万人で、関西、中京圏と同程度となっているが、エリア人口に対する比率は関西、中京圏の約半分(5.5%)にとどまっている。

しかし、新幹線の開業により首都圏からのアクセスが関西、中京圏なみに改善されることから、その比率が両エリアと同程度となる500万人を新たな重点目標に設定する。

エリア人口に対する誘客数の比率(実績と目標)

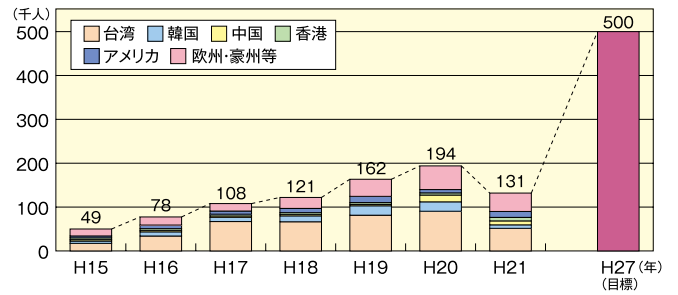
	エリア人口	H21実績	H27目標値
首都圏	4,100万人	227万人(5.5%)	500万人(12.2%)
中京圏	1,500万人	215万人(14.3%)	500万人
関西圏	2,000万人	259万人(13.0%)	500万人
3大都市圏計	7,600万人	700万人(9.2%)	1,000万人(13.2%)

※カッコ()内はエリア人口に対する入り込み客数の比率

◇海外～海外誘客10倍増構想～

国の訪日旅行促進事業、いわゆる「ビジット・ジャパン事業」との連携に加え、ソウル便、上海便、台北便の利用促進を図り、韓国、中国、台湾などの東アジアを重点地域とするとともに、欧米豪からの誘客も促進するなど、国際航空路線網の充実整備と実効性ある誘客対策を講ずることより、外国人宿泊者数を平成15年の5万人を目標年には10倍の50万人とする。

外国人宿泊者数(実績と目標)



◇MICE誘致の目標設定

「石川県コンベンション誘致推進計画」に基づき、本県におけるコンベンションの年間開催件数を平成26年度には年間380件とする。

コンベンション開催数(実績と目標)

区分	基準値 (H17～19年度平均)	目標値 (H26年度)
年間開催件数(参加人数)	328件(98,259人)	380件(115,000人)
うち国際コンベンション	31件(9,591人)	35件(11,000人)

※MICE

- M…企業内等で行われるミーティング(Meeting)
- I…企業従業員等の能力や士気向上を目的とした報奨・研修旅行(Incentive)
- C…学会や大会などの会議(Conference)
- E…展示会・見本市(Exhibition)

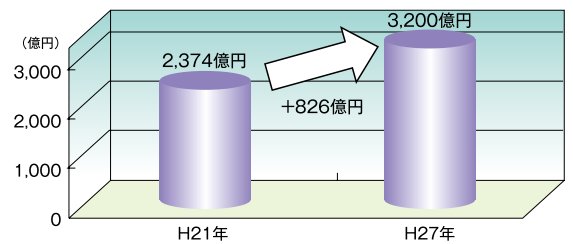
◆観光消費額の目標設定と経済効果の推進

◇観光消費額の目標設定

観光消費額は、地域の観光振興の取り組み成果を表す重要な指標であり、その目標を3,200億円に設定している。

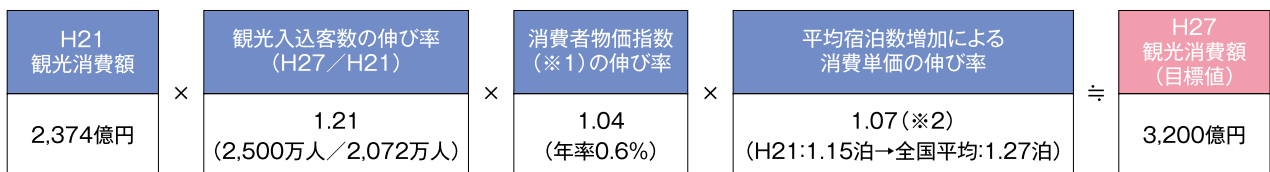
平成21年の観光消費額は2,374億円となっているが、入り込み客数の目標達成等により、引き続き目標値を3,200億円とする。

観光消費額(実績と目標)



※観光消費額:「観光動態調査」に基づき算出。
宿泊費・飲食費・土産代:観光に関する消費額の総和。

〈観光消費額3,200億円の実現に向けて〉



(※1)消費者物価指数:H22.10.29日本銀行発行「経済・物価情勢の展望」に基づいて試算。
(※2)平均宿泊数:「宿泊旅行統計調査」(観光庁)に基づく。1回の旅行における宿泊日数を全国平均並みに引き上げる。

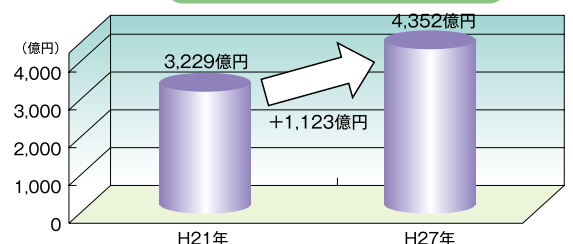
◇生産波及効果の推計

旅行や観光は、観光産業と称される旅行業、宿泊業、土産物販売業等への直接効果はもとより、飲食業、農林水産業、金融、通信、製造業など幅広い産業分野に及び、地域の経済や雇用創出に大きな影響を与える。

本県観光産業の経済波及効果を、観光消費額と産業連関表等に基づき算出すると、平成21年は3,229億円となり、目標年(平成27年)には4,352億円と推計される。

なお、波及効果が大きな分野としては、旅館業、飲食業のほか、運輸業、小売業、食料品、不動産等が挙げられる。

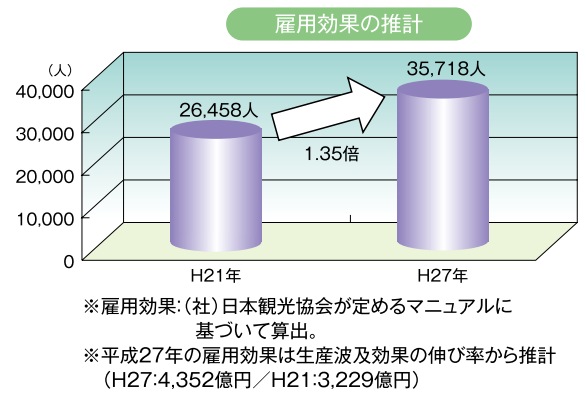
生産波及効果(実績と目標)



※生産波及効果:産業連関表等に基づき推計

◇雇用効果の推計

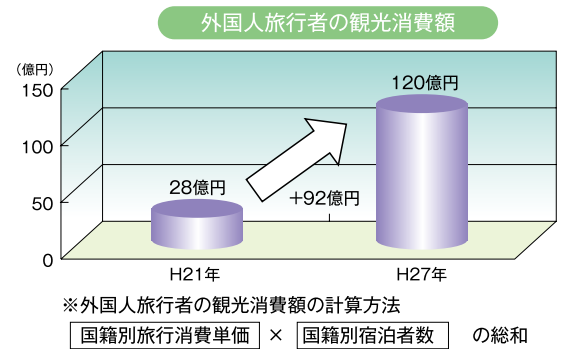
現在、石川県内の観光による雇用者数は約26,500人と推計される。観光消費額の目標達成による生産波及効果の伸び率(1.35倍)から雇用効果を推計すると、目標年(平成27年)には35,718人となり、平成21年と比べ、新たに約9,200人の雇用効果が生まれるものと推計される。



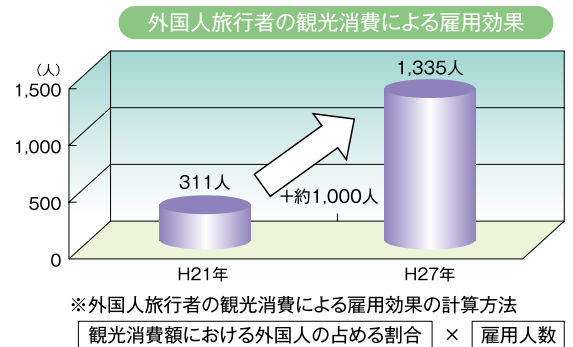
◇外国人旅行者の観光消費額と雇用効果の推計

「海外誘客10倍増構想」や、国の訪日旅行促進事業により増加が見込まれる外国人旅行者は、地域経済に与える影響が今後ますます大きくなっていくことが予想される。

本県における平成21年の外国人旅行者の観光消費額は約28億円と推計され、「海外誘客10倍増構想」の実現により、目標年(平成27年)には約92億円増の約120億円と推計される。



また、観光消費額における外国人の占める割合から、外国人旅行者の観光消費による雇用効果を算出すると、目標年(平成27年)には新たに約1,000人の雇用効果が生まれると推計される。



※ただし、これらの目標値については、世界経済や為替が安定していること、大規模な災害や戦争、疾病が発生しないことを前提とする。



金沢/武家屋敷跡 野村家